Dolpa 訪問報告「2013年12月25日―2012年1月5日」

　　　　　　　　**現地マネージャー　クリシュナ・カティワダ**

2012年12月Dolpa訪問。NepalgunjについてからすぐにDolpaへ行く飛行機を手配しました。ラッキーなことに、今回は27日のチケットが取れました。しかし乗客は３人しかいない。カーゴ便のように他には椅子を外して荷物がいっぱいのそられていました。

27日DolpaのJufal空港に着いてからすぐ、Pamphaさんの村へ出発。Pamphaさんは途中まで迎えに来てくれました。Jufalから３時間ほどBheri川沿いを歩いたところに村はありました。

その日はPamphaの家に泊まりました。

この村「Tripurakot」には電気はある。近くの川で発電している。

しかしトイレはない家がまだ多く、村の周りが汚い。

水の問題もかなり大きかった。川に流れている水を汲んで飲んでいる。ここの人は外国へ出稼ぎにはそれほどいっていない。Dolpa内で仕事があるからとのことでした。農家は麦やChinuを作っている。

米は政府から安い値段で売ってもらっているから食料問題はそれほどはないようだ。

Pampha kathayatの学校「１２月２８日訪問」

ダリットの子供だけ勉強している学校でした。以前ダリットの子供とそうではない子供が遠いところの学校へ行っていたがダリットの子供のいじめ問題でダリットの子だけのために学校が建てられました。

それからはダリットの子達もちゃんと学校を行くようになった。今は学校へ行かないあるいは途中でやめる子はないとのこと。校長先生はかなり努力家です。Ｐａｍｐｈａさんの仕事が継続できるか心配している様子でした。

まじめに働くPampha togaのことですから何かやってあげかたいといっています。しかし生徒数が少ないのでHimjyoti「今教えている」学校では続けてもらうのは簡単ではないとのこと。

この学校ではトイレはありますが水管理はうまくいってないのでトイレは使われていません。

HimjyotiでPamphaの授業みてからDunaiへ出発「28日」。Laxmi devkota５期生の親ともお会いできました。Pamphaの学校とLaxmiが今度帰って教える学校は近くにある。村もそんなに離れてない。ご近所さんでした。

Lalmayaさんの学校訪問「３０日」

Pamphaの村から６時間歩いてDunaiへ着く。

DunaiはＤｏｌｐａの首都。Ｌalmayaの学校はここから３時間歩いたところにあります。この日はDunaiのゲストハウスとまった。次の日はＬalmayaのところの学校は休みでしたのでもう一日待つ必要がありました。

三日目は空へ登る階段のような道を登ってLaligurans小学校へ。学校は真っ青な空の下にあった。理事長さんも校長も他の先生も集まってくれた。

Ｌalmayaの授業を見て山登りの疲れもなくなった。

いい先生とめぐり合った子供の笑顔を忘れることは出来ない。ここはトイレ建設中でした。

３時間ほどその学校にいてDunai町へ降りた。

そこのフィダーホステルに行きましたが今回ＳＬＣを参加する子は５人いましたが。休みだったので会えませんでした。

先生方とは話ができました。Lalmayaさんを日本へいけるようになったことを喜んでくれました。帰国後はもっと立派な先生になってかえって来るでしょうとの事です。その後も続きは可能であれば是非やってもらいたとの事でした。Lalmayaは努力して村人の期待にこたえてくれた様子が見えた。

ついでにPadmakumariの家が近かったのでよりましたが彼女はいなかった。お母さんは会えました。

３１日は朝早く空港に向かって出発しました。

しかし天気が悪くなり始めました。

人が集まり始めた。病気でKTMで行く人、冬休みが始まったからNepalgunjへ降りる人などでJufalの空港の近くのホテルはいっぱい。しかし次の日から大雪でそこでJufalは晴れたらNepalgunjが霧で飛行機が飛べない。毎朝空を見て時間を潰した。

理事長は馬乗り

Ｌalmayaの学校は空の中に突き出た山の上にある。彼女は毎日あんな道を歩いて教えに行っていた。私たちは学校に着いた後から理事長さんが馬に乗って走ってきた。彼の馬の走りの早さを見て日本の新幹線の光を思い出しました。カメラにつかまるのも厳しいほど早かった。

飛行機を待ちながら「12月31日から」

JUFAL空港で飛行機を待っている間にいろいろ見ました。

崖から落ちて死にそうな人、最悪の場合は飛行機までチャーターしてもKTMまで行きたい人、病人が死にそうですが死が早いか飛行機が早いか分からず困っている人たちが沢山集まってきた。

国会議員もいました。しかし天気は安定しない。NEPA GUNJIの天気とJUFALの天気は、悪天候を競い合っているようでした。空を見て飛行機があてにならないので、３日間歩いて陸路で行ってしまう人も少なくはなかった。

崖から落ちて６日目の１３歳の子がいた。待っている間にお金がつき、病院での治療代に困っているようでした。１３歳の子の父親は２８歳でした。

結局私たちも出発「１月４日午後」

天気予報はまったく悪くどんどん空が曇ってきました。人々の経験話ではもうこんな空になってきたら絶対にしばらくはフライトが来ないとのことでしたので、私たちも歩きだしました。

一日目泊まったのはPAMPHAとLAXIMIの近くの宿。

２日目は朝９時ごろ歩き出しました。三日歩けばRUKUMやSALYANへ抜ける。ついでにKAUSHILAのところも寄れるとの計画でした。しかし二日目はKARABGADHというところで道を歩いていたら同行の市岡優加さん事故にあった。

そこからすぐにレスキューヘリーを手配しましたがもう時間が遅いので次の日にならないとだめとの返事が受けた。

２日目午後４時ごろ「1月６日」やっとヘリーがKTMからきてくれたのでKTMの病院まで市岡さんを運んで入院しました。同行のJICAボランティア東さんにもお世話になりました。